氏　　名	竹内　英実
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博　甲第　5598　号
学位授与の日付	平成29年9月29日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 （学位規則第４条第１項該当）
学位論文題目	The Prevalence of Frailty and its Associated Factors in Japanese Hemodialysis Patients （日本人血液透析患者におけるフレイルの罹患率とその関連因子）
論文審査委員	教授　光延文裕　　教授　土居弘幸　　准教授　千田益生

学位論文内容の要旨

背景： 透析人口は世界中で高齢化していっているが、特に日本で顕著である。そういった高齢化人口で問題となってきているものがフレイル（虚弱）である。しかし日本人透析患者でのフレイルの現状はわかっていない。この研究は日本人透析患者でのフレイルの罹患率と予測因子について検討することを目的として行った。

方法： この研究は多施設共同の横断的観察研究である。6 つの透析施設に通う維持透析患者を対象とし、フレイル及び各種パラメーターを評価した。フレイルの評価については Fried らの frailty phenotype モデルを日本人用に修正し、使用した。

結果：388 人の解析対象者のうち、26.0%は非フレイル、52.6%はプレフレイル、21.4%はフレイルであった。フレイルの比率は年齢と共に上昇し、女性でより合併しやすかった。多変量ロジスティック解析では、女性、75 歳以上、BMI<18.5、内服薬数、糖尿病、MNA-SF≦11 が独立して有意に関連していた。

結論：本研究の維持透析患者では、フレイルの罹患率は諸外国の報告と比べると明らかに低かったが、依然として一般的な人口と比べるとはるかに高いものであった。

論文審査結果の要旨

論文審査結果の要旨

近年世界規模で高齢化が進行し、高齢透析患者も増加しているが、特に日本で顕著である。そういった高齢者で問題となってきているのがフレイル（虚弱）である。しかし日本人透析患者でのフレイルの現状はわかっていない。

本研究では、日本の維持透析患者でのフレイルの羅患率と予測因子について検討を行った。本研究の対象患者では、フレイルの罹患率は諸外国の報告と比べ明らかに低かったが、一般高齢者と比べると非常に高く、リスクファクターの蓄積とも関連していることが示された。

委員からは、透析患者のフレイル罹患率が諸外国の報告と比べ低かった理由について質問があったが、透析導入時期、透析治療の質の高さなど具体例を挙げて回答した。

本研究は、日本人維持透析患者のフレイル羅患率を調査した最初の報告であり、フレイル羅患率とその予測因子について、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。